

ポストSDGsに核兵器廃絶を働きかける国際市民社会グループの設立について

1 趣旨

へいわ創造機構ひろしま(HOPe)は、国際NGO等と共に、2030年以降の次期国連開発目標(ポストSDGs)に、核兵器廃絶が位置づけられることを目指して、市民社会から働きかけを行うグループとして、「グローバル・アライアンス『持続可能な平和と繁栄をすべての人に』」【略称：グローバル・アライアンス】を令和4年4月4日に設立した。

グローバル・アライアンスは、環境、人権、保健など多様な分野に関わる団体とともに、核兵器の問題を持続可能性の観点から捉え直し、政策提言やキャンペーン等の活動を2030年に向けて展開する。

2 グローバル・アライアンスの概要

(1) 対象者

設立趣意書(別紙1)に同意する全ての個人・団体

※現在世界13カ国から29団体が参加

(2) 活動内容

ア 核兵器問題が環境、社会、経済など多方面に及ぼす影響を持続可能性の観点から捉え、国際社会に問題提起を行うための政策提言を策定し、キャンペーンなどを通じて発信を行う。

イ 国連がこれまでに発表した「軍縮アジェンダ(An Agenda for Disarmament)」, 及び「コモン・アジェンダ(Our Common Agenda)」を市民社会の側からサポートしていく。また今後、国連未来サミット(Summit of the Future)において策定される新たなアジェンダ(Agenda for Peace)に、「2045年までの核兵器廃絶の達成」が盛り込まれ、ポストSDGsに向けた国際的な潮流を確実なものにしていくよう、働きかけを行う。

ウ 国際交渉の交渉主体として参画するために、グループとして、国連経済社会理事会(ECOSOC)における協議資格の申請、及び、メジャーグループ及びその他ステークホルダー(MGoS)における新規グループの立ち上げを目指す。

エ 外交交渉に携わる政府関係者を集めた「フレンズ会合」の設立及びその活動に対して支援を行う。このグループのメンバーは、それぞれが関係を有する政府に対し、「フレンズ会合」への加入を働きかける。

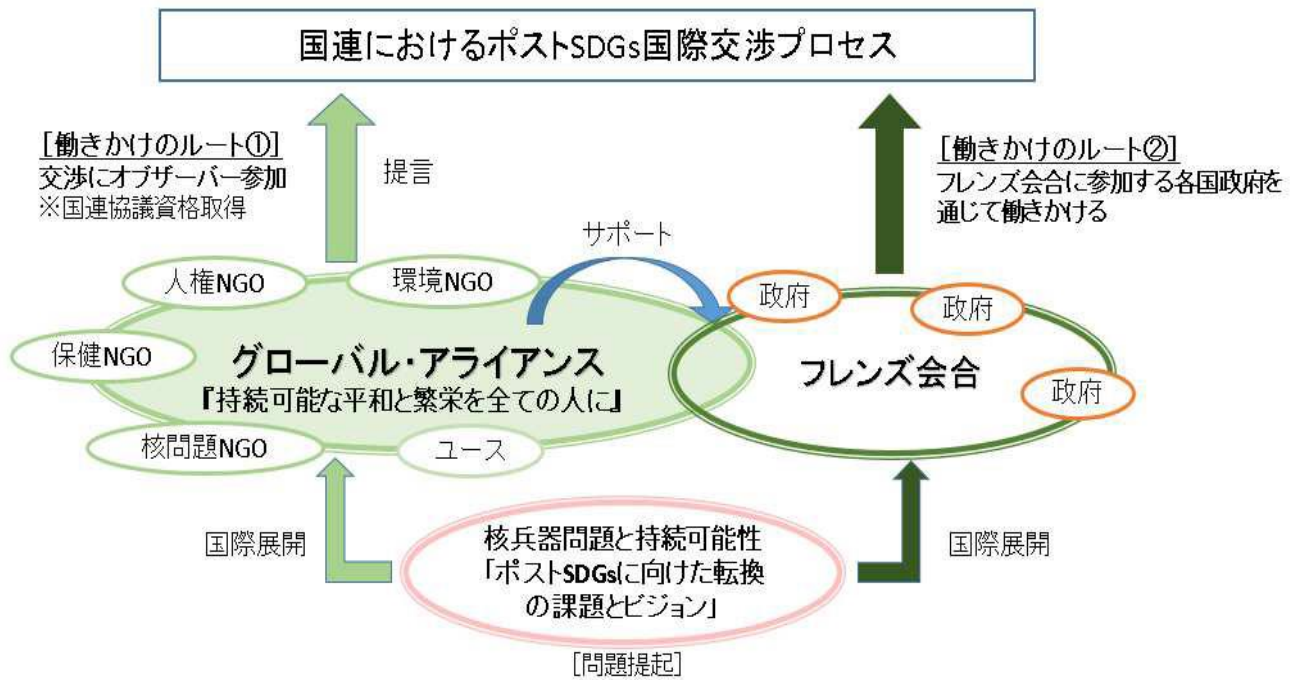
(3) 今後の展開

核兵器の問題は、これまで「安全保障・法律」や「人道・倫理」といった面から議論されてきたが、これに加えて新たに「持続可能性」の観点から、この問題を捉え直し、ポストSDGsを巡る議論に、「持続可能な平和と繁栄をすべての人に」という視点を入れることの必要性を認識してもらうためのキャンペーン活動を展開する。

また、「ポストSDGs に向けた転換と移行のための課題とビジョン」の示す姿について、国際的、分野横断的な観点から議論を行い、SDGs 中間年であり、G7サミットが日本で開催予定である2023年を目指して、提言策定を進める。

- (4) 予算
3,000千円

【取組のイメージ】



3 その他

グローバル・アライアンス情報サイト

[へいわ創造機構ひろしま \(HOPe\) ホームページ](#)